

ありがとう。 ちよっただけ、さようなら。

市立図書館・中央公民館 閉館 (野々市公民館併設)

たくさんの
思い出とともに

長

きにわたり、市民の皆さんに愛されてきた、本町二丁目にある市立図書館（旧役場庁舎）と中央公民館が、7月30日をもって閉館となります。今後、市立図書館は今年11月に太平寺でオープンする「学びの杜のいち カレード」内へ移転。中央公民館は平成31年、現在の市立図書館・中央公民館が建っている場所です。新たに建設される「地域中心交流拠点施設」に組み込まれる予定となっています。

市では、総合計画に掲げる「みんながキャンパスライフを楽しむまち」の考えのもと、一生涯にわたって学習活動を続けられる社会教育の振興に努めています。

本から学ぶ図書館、そしてイベント・サークル活動などにぎわう公民館や連携施設は、その重要な役割を担う施設です。これまでのように市民の皆さんに愛され、利用されてきたのでしょうか。そしてこれからはどう変化し、市民の皆さんの「生涯学習」を作っていくのでしょうか。

これまでの利用

市

立図書館には毎日平均200人が訪れ、本の貸し借りはもちろん、おはなし会、絵本の読み聞かせボランティア、新聞や雑誌のチェックなどにも利用されています。野々市公民館には約30のサークルがあり、ダンスや英会話、人形劇、オカリナなど多岐にわたる活動が日々行われています。また、楽しいテーマの講座がいつぱいの「ののいちコミュニティ・カレッジ」や、60歳以上を対象とした「野々市寿高等学校・大学院」も、趣味や生きがいづくりの一助となっています。これらの活動の成果を発表する場として、年一回の「ののいちマナビifesta」では、ステージ発表や成果物の展示が行われ、来場者を楽しませています。

新しい施設では、引き続きこのような各個人や団体が活動を行えることに加え、活動を通して交流や連携を生むことができる設備を整えます。

知恵や経験を持ち寄ることで、さらなる学びの相乗効果が期待されます。



マナビifesta



コミュニティ・カレッジ



絵本の読み聞かせ

図書館は内外とも老朽化が激しく、近くで見えてきて「ご苦労様」という気持ちです。

長い間利用させてもらって感謝しています。新しい施設で踊るのも楽しみです。

5年前から毎週公民館で歌っています。おかげで仲間ができて、健康でいられました。

図書館を長年愛用
越野 鈴江 さん

野々市リフレッシュ
吉岡 千雅子 さん

野々市なつメロ愛唱会
北村 武司 さん

私たち、お世話になりました。



地域中心交流拠点施設
平成31年4月オープン予定。



学びの杜のいち カレード
11月にオープン予定。



旧町役場庁舎を図書館として
リニューアルオープン。



町立図書館が中央公民館内から
分離・独立。（横宮町にて）



野々市寿高等学校を開校。定員
40人のはずが145人も受講！



中央公民館新築落成。1984年
に図書室が町立図書館となる。

これまでの歩み

学びの杜のいち カレード 内観イメージ



おはなし会コーナー

光庭



ブックタワー

ブックタワー・・・市民の知の集積を示すシンボル。壁一面に本が積み立てられます。
光庭・・・ガラス張りの吹き抜け。館内に自然光を取り入れ、開放的な空間に。
おはなし会コーナー・・・楽しい絵が描かれた丸いカーテンが天井から吊るされます。

工事中の現場で
見学会を開催しました！
詳しくは 16 ページへ

新図書館 + 市民学習センター + 憩いの広場

調理室



楽しそう！
やってみたい！

陶芸室



音楽スタジオ



本+αで生まれる新しい発見

工房



新公民館 + 市民連携拠点 + 民間商業施設



企業



学生



行政



地域住民

新しいものを
生み出す可能性

これからの生涯学習

新しくできる2つの施設に共通するキーワードは「交流」。市民だけでなく、市外からの利用者、大学、企業、サークル、ボランティア団体など、さまざまな人が施設の利用を通じて知り合うことのできる場を想定しています。

たとえば学びの杜のいち カレードでは、図書館と工房、陶芸室、調理室、音楽スタジオなどが一体になっています。もし活動中に困ったことがあれば、すぐそばにある本からヒントを得ることが出来ます。また、図書館だけを目的に来た人も、市民学習センターでの活動を見かけ、「やってみよう」と思えば、そこで活動に参加することが出来ます。図書館・市民学習センター双方の利用者が増えることで、学習活動の輪が広がり、活性化していくと考えられます。

新しい公民館が入る地域中心交流拠点施設には、市民や市民活動団体、大学、企業、行政など多様な主体が情報交換・連携するための拠点を設置。これらの多様な人たちの協働により、新たな取り組みが生まれてくることを期待しています。また、市の観光物産の拠点となる複合商業施設の併設も予定しており、新たな特産品の発掘や、産業活性化の一助となる可能性を秘めています。

最も理想的なのは、このように人が集い、活動に取り組むことによって、地域課題の解決につながることです。たとえば本を借りに来た一人暮らしの高齢者が、絵本の読み聞かせボランティアに興味を持ち、参加する。幅広い年代の人と触れ合うことにより孤独感が解消され、地域での見守りにもつながる、などといった場面が増えていくことを願っています。

ヒト・モノが出会い、交流し、にぎわいを創出する。生涯学習×市民協働の相乗効果により、学んだ成果を地域に還元し、このまちが人の手でより良く変わっていく。そんな未来が、まちづくりの根幹に描かれています。

生涯学習と市民協働の未来へ



中央公民館長
田多野 和彦氏

私の考える生涯学習のあり方として、大切なことが3つあります。1つ目は、学習して知識や技能を深めること。そして2つ目は、人と交わり、友達をつくること。最後に3つ目は、得た力を地域で役立てることです。教室で前に座る人の後ろ頭しか知らずに講座を受けるのではなく、他の参加者と話をしながら学び、仲良くなり、地域にどんな人がいるのかを知って、地域活動に参加できるようになる。その第一歩となる場でありたいと思い、公民館のキャッチフレーズを『キッカケは公民館』としています。新しい施設になっても、この考えは変わりません。用事がなくても「ちょっと公民館でも行ってくるか」と市民が集い、楽しく過ごせるまちの広場のような場所にしたいと思っています。



生涯学習課長
横山 貴広氏

学びの杜ののいち カレードは、これまで市になかった機能を持つ複合施設です。図書を活用し、市民学習センターでの新しい学びの形を創出するという相乗効果に期待しています。蔵書数も、現在の約7万冊から最終的には25万冊に増え、皆さんの知の要求に応えられるものになると思っています。特に市民学習センターでは、施設で企画される催し物に参加するだけでなく、市民の皆さんの自由な発想で自発的に事業を行い、さまざまな利用方法を生み出してもらいたいと思います。「自分たちも新しい図書館でこんな活動に参加してみたい」といったボランティアグループの声など、多彩なアイデアも聞いています。施設を十分に活用して、なじみのない分野の学習にもチャレンジしていきましょう。

万華鏡 Kaleidoscope — キラキラ輝ける場 —

個々の学びが集まり、交流や協働が生まれるとき、互いの知恵や経験はより大きな効果を発揮します。地域課題の解決や産業・観光の振興など、各個人や団体だけでは成しえないことを達成するための、大きなチャンスを作り出す。学びの杜ののいち カレードの完成は、その第一歩です。

いつまでも学び続けたいと頑張る人は、輝いています。そんな輝く人が集まって、より大きな輝きを生み出すとき、学びの杜ののいち カレードはその名のとおり「万華鏡」のような場になることでしょう。

11月のオープン後はぜひ施設を利用して、一緒に学びの世界を広げていきましょう。